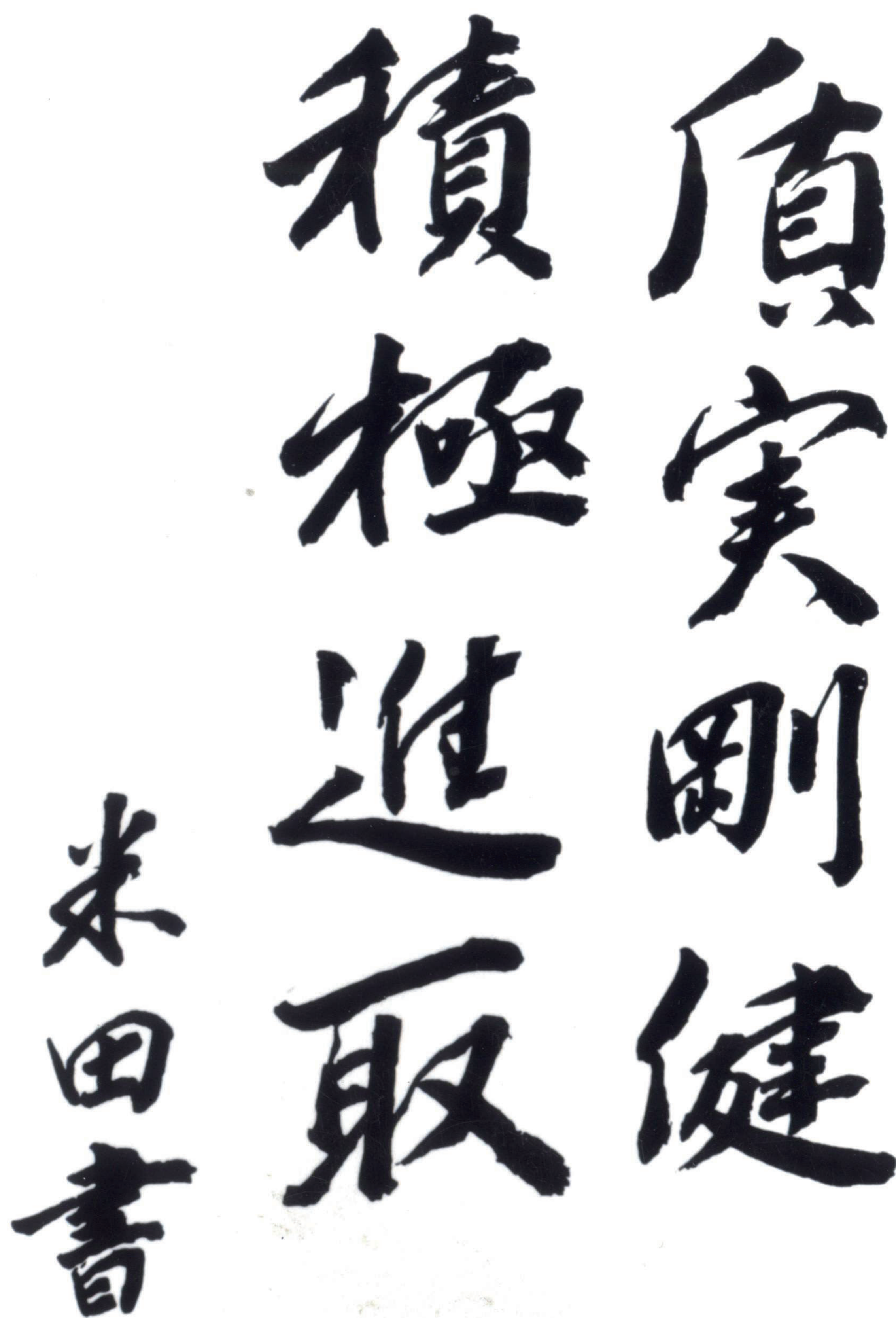


教育への思い

中正堅実な青年の育成



大学で学問を修め、また読書と思索を重ねるなかで、米田は「人生とは天分を開発して社会に貢献することにある」との思いを強くしました。そして、その実現のために「教育」への熱意をもつようになります。

1926 (大正 15) 年、米田は中央大学を卒業します。当時の社会状況は大正デモクラシーにともなう都市文化の形成や労働・農民運動の活発化の一方、治安維持法制定・社会諸運動の弾圧で混乱し不安定なものでした。これを目の当たりにした米田は、国家の中核となる「中正堅実」な国民を増やすことが急務との認識に至ります。そのためには、自分と志を同じくする青年を多く育てることが大きく社会に貢献できるのでは、と教育への思いを強くし、多くの学者の協力を得て学校造りを始めました。